令和6年度 第1回生物多様性たからづか戦略策定委員会

日 時 令和6年10月10日 9:30~11:30
場 所 中央公民館 学習室 205号

出席委員 遠藤委員長、栃本委員、今住委員
事務局 環境部長、環境部次長、環境エネルギー課長、環境エネルギー課係長、環境エネルギー課事務職員、公益財団法人 ひょうご環境創造協会職員2名

1. 開会

会議の成立 委員3名中3名出席。審議会規則第6条第2項の規定により本会成立。
会議の公開 本市の審議会等の運営に関する指針に基づき、原則公開することとしているが、傍聴者はなし。
議事録の公表 概要版を公開すること、委員の氏名は記載しないこととする。
資料の確認 事務局より添付資料の説明を行った。
議題 (1) 生態系レッドデータブックスポット調査結果（～令和5年度）の概要について
(2) 生物多様性たからづか戦略の体系、構成等について
(3) 第1章案について

2. 議事

議題1 生態系レッドデータブックスポット調査結果（令和5年度まで）の概要について

委員長	まず、予定議事1番目の「生態系レッドデータブックスポット調査結果の概要について」事務局の方から説明、よろしく願います。
事務局	資料1-1から資料1-4までの内容が今回のスポット調査の報告という形になっており、見ていただいた中での修正、指摘いただいた部分については、既に修正という形で反映している。 まず、データの作成の手順を説明する。事前にお配りしているスポット調査の資料、個票2000年、2011年はこちらの一覧のデータになっておりますが、2018年から2023年までのデータのスポットごとに数値等々を書いているものを、資料1-2-1に転記し、宝塚市生態系レッドデータブックに記載されている重要な生態系スポットの一覧を作る。ここから点数、評価などに基づいて整理したものが1-3になる。内容を評価の点数で集計したものが資料1-4-(1)、評価区分で分けたものが資料1-4-(2)となってい

る。

今回の平成30年から令和5年のデータ1-1にまとめている。この中の調査中のものに関しては、今年度中には残りの32件全てがそろそろ予定になっている。

以上の資料をメール等でお送りしており、その時点での修正があったところは、今回の資料で修正している。

今回、資料1-2-1の中に特記事項に過去の貴重な生育動物・植物についての状況を2000年、2011年にあがっている内容については、特記事項に内容を追記している。

資料1-2-2は、いただいた意見と市で修正できると判断ができるもの、記載ミスなどの部分について回答している。

資料1-2-3については、漏れている部分やもう一度確認するところがあったので、全て揃ったら資料という形でお出しする。

資料1-2-3のNo.103、108、123については、回答を修正している。この修正で問題なければ、これを反映させ、一覧表を修正する。説明は以上である。

委員長 膨大な資料を昨年度の部会での手順におおむね従ってまとめていただいている。大変ボリュームのある資料であるが、御意見や御質問はあるか。

委員 根本的なことだが、このスポットが本当に前に調査されたスポットなのか。GISに落とすとか、兵庫県が出しているため池データベースから引っ張れるようにする必要がある。

今回はもう仕方がないのかもしれないが、本当は場所を確定することが大事だと思う。もしも無理ならば、次の調査のときに、5年後に入ったときに同じところに行けるようなシステムをやっぴり構築すべきだと思う。

委員長 スポットの場所というのは非常に基本的なことで、一番初めの大元になっているデータというか、その存在が確認できてないということだった。それを今の時点で新たに落とさないといけないことだが、以前、GISにしていたいたのでは。

委員 そうである。一度作成し、共有もした。ただ、過去の地図をなぞっているような状態であり、もしかしたら違うところがあるかもしれないので、その精査が必要かもしれない。

委員 全部入っているのか。

委員 全部入れたはずである。

委員長 手で描いた地図を基にということか。

委員 兵庫県レッドデータブックに入っているような形と同じものである。

委員長 市のほうでは今どういう状態、活用できる状態か。

事務局 そのデータを確認できていない。

委員 グーグルマップでも見られるようにしたと思う。また活用してほしい。

事務局 承知した。

委員 調査した時点でせめて2万5,000分の1に。池ぐらい出ているのだから、何故それを使わずにアバウトな地図をずっといつまでも使い回すのかが理解できない。

委員長 その辺り、いつでも地図をここだというふうに出せるようするのがまず一番だ。事前の打合せをしたときもそういうお話ししたが、その辺りの見通しはどうか。

事務局 少なくとも今回スポット調査しているものに関しては、きちんとデータ化している。委員がおっしゃったように昔の地図をずっと使っている、使い回しているとかではなくてきちんとデータ管理できるように整えていく。

委員長 そこはよろしく願います。今後、どうなるか分からないが、例えば環境省の自然共生サイトの名前が変わるのかもしれないが、そういうところに登録するような動きになったときに、必ず場所が特定できるデータが必要になってくると思うので、ぜひその辺の整理をよろしく願います。

事務局 承知した。

委員長 その他、データ等について意見はないか。

委員 以前も議論があったと思うが、資料1-4の一番上の表を見ると、2011年のランクから2018年から2023年にかけてどう変化したかがまとめられている。変化した部分を見ると、良くなっているところが非常に多い結果になっている。悪くなっているところよりも多い。

ただ、実態としては恐らく劣化が進んでいるところの方が多い。こういう結果になっている原因が調査の中で、中には新たに重要なものが見つかってこれまでCだったけどBぐらいあるところもあるとは思いますが、よくよく見てみると、地形の数値が1から3になっていたり、本当にここまで評価していいのかというところもある。最終的にこの表を戦略の中にベースの資料として載せるのであれば、チェックした上でやっていかないと宝塚市の自然は、良くなっていると誤解される可能性もあるので、そこは精査が必要だと思う。

具体のところでは、資料1-2-1の29番の評価が1から3になっている。1から2になっているところも結構ある。地形が大きく良くなることはあまり考えられないので、その辺は確認が必要だと思う。DランクからAランクに上がっているものも中にはあったりする。

委員 本当にそんなことがあるのかなというところは要チェックと思う。

1-4-(1)の表3は、どういう影響が出ていて、実際に生物多様性の劣化が進んでいるところが見えるようまとめていると思うが、④の気候変動(第4

の危機)は、全く影響は確認されていない評価になっている。ただ、個々の調査結果を見ると、資料1-2-3のNo.134の足洗川の回答のところに、時期が大変暑い時期で悪かったのかというところで水量が少ないとか水温が高いついていうところも含まれているのかもしれないが、科学的に温暖化の影響でこういう影響が生じているって言い切ることはできないとは思いますが、かなり最近の猛暑で実際にこういう影響が出てきている可能性は高いと思うので、そういったところも拾い上げておいてはどうかと思う。

委員長 まず、1-4の表1のランクが上がっている場所がかなり多い。評価の仕方とか基準が変わっていることも関係していると思うが、実際、そんなに上がっているところが多かったのか。去年のイメージだと、そんなにあったか。

委員 多少はあったが、ここまで増えている印象はなかった。

委員長 地形の評価が上がっているのが全体に効いているのか。

委員 調査受託者が地層に詳しく、すぐに断層崖であるとか断層が走っているとかそういう文言が出てくる。

委員長 その辺り、今までの調査との整合性が見つかるのではないか。

委員 逆に言えば、本当はいいところだが、今までの評価が低かったから、例えば3が上限なので、その部分で上げてAとかBとかに持っていこうという意図はあるかもしれない。3が上限である。

委員 あえて、このランクの変化で生物多様性の変化を評価しないという選択もあると思った。現状だけで相対的に評価をするというのはどうか。

委員長 去年は劣化とか変質とか細かく分けて3つぐらい下がった分について、分けたりして評価をしていた。良くなるというのは、実際に良くなっているのであればいいが、それが現状の変化としてきちんと評価できているかは、確かにやや問題がある。特に地形のようにそう変わるものではない、大きく良いほうに変わる性質のものではないということを考えれば、扱いが難しいところではある。

改定版には変化を載せるのか。今までは初めてなので変化は出ていない。

事務局 例えば現行の「生物多様性たからづか戦略」の27ページには、過去からどのように変わったのかという表記はないので、現状の書き方を踏襲するのであれば、あえて過去はこうだったけれども、DランクからAランクになったとかの表記は載せなくてもいいと思う。

委員 この28年改訂版は、総括なしでやっている。結局、今まで何が悪かったからこう変えないといけないという、いわゆるPDCAサイクルのチェックポイントがどこにも反映していない気がする。

例えば、荒神川の河川工事の問題は、もう10年とかもっと前からの問題である。それが全くこれにも反映されていない。そこが疑問である。今回改訂する

のであれば、必ず総括はこの中に入れるべきだと思う。

事務局 確かにこれを見ると、改定版にしては、以前はどうであったかがないと思っており、今回作るときに、現行計画の総括、現状課題、表現はどうか分からないが、それをどう捉えるかは、第2章ぐらいになるかと思うが、その辺りで書くべきだと思っている。

委員長 戦略の改定をどうしていくかというのはまた次の議題にもなるので、そちらでもう少し議論していきたいと思う。

スポット調査の結果をどう表現するかという問題も含めて、検討の余地がある。せっかく前の調査結果があって今回また新たにそこを10年かけてやっているわけなので、どんなふうになっていったかというのを反映できればいいと思う。それをありのままこれに載せて信頼の置ける報告になるかどうかというところで、すぐには結論が出ないかもしれない。

事務局 10年前の評価の仕方と、今回は今回でしっかり見ていただいた。AとかBをつけ、それが見える化という形では出る。以前の分をどうするかというところで、二重表記みたいになったら見方としては見づらくなるし、変化なりがどううまく見える形で書けるか。その目線で書きぶりを一回考えてみるのが良いと考える。

どういう見せ方がいいのか。ただ、今だけ見せて前とはどうなのか全く分からないのも良くない。評価の数の変異なのか、総評としての変化を記すのか、どういうふうに見せたらいいのかは次の会議のときの話かなと思う。今この内容を議論しているので、それを踏まえて検討した形でお見せしたいと思う。

委員 時期の問題もある。同一時期にやったデータなのか、全然違う時期にやったデータなのか。

調査受託者に2回調査を依頼し、2回行ってくれたこともあるが、6月、7月しか見られないものを、例えば9月に調査しても見られるわけがない。

委員 その調査結果を受けて評価点をつけるところ、その評価点について我々がジャッジをしないとイケないのだと思う。全部時期を分けて調査するのは無理なので、予算的にも。その中でこれだけ情報を得ているのは非常に大事なことだと思う。だけど、調査時期がずれているから本来いるかもしれないものが、見つかってないということで評価を落とすのはちょっとおかしいと思う。その辺の部分のジャッジをしながら最終の点を決めないといけない。

事務局 全体としての傾向としては言えるからAとかBの評価の推移なりを見せるのかなど、その辺りが私たちもこの資料を作るに当たって、考えているがなかなか専門性には欠けるところがあるので、委員の皆様がその辺りをどうジャッジして、どのような見せ方でいくのかというところが、今日すぐ結論を出さなくてもいいが、次回以降、見せ方を一回お示しして、方向性を決めていく必要が

あると思う。

委員 先ほど、委員長はぜひこの変化も見せたいとおっしゃったので、それなら私は協力というか、多少汗をかいても良いと思っている。

委員長 整理をすると、まず、委員がたくさん精査して出した質問に調査受託者から回答をいただいた。評価を下げるのも了解といった返答のところも何か所かある。それはまだ反映されていないので、それを反映させればさっきの数は少し変わってくるということか。

事務局 その通りである。

委員長 その上で、それでも評価が上がった箇所は多分幾つか出てくる。恐らく地形を高く評価していることで出てくるのだと思うが、そこはやはりそんなに経年の変化で変化することはなくて、見方が変わったので変化したということなので、その辺りはどっちに揃えるのがいいのかという問題はあると思うが、何とか処理をする方向でいけるような気がする。

委員 過去を遡って高くするのもどうかと思うので、そこは同じようして。問題のありそうところを出し、委員でジャッジをして、最終的には調査受託者の了解を得ておいた方がいいと思う。そういう形で、できるだけその整合性のある比較ができるような感じで整えていく。

委員 多分、その作業の中で、調査時期の問題で情報が得られていないところも出てくると思う。今後、戦略の中にモニタリングということも当然入ってくると思うが、同じように網羅的に調査を進めていくのは非常に大変だと思うので、モニタリングの対象も絞っていくべきだと思う。重要だが情報が少ないところとか、そういうところを重点的に見ていくことも考えていけると思う。

委員長 そうである。今後の課題として、せっかくこういう調査をしているので、これをさらに今後続けていくのであれば、モニタリングの方法をもう少しきちんとしていかないと、調査があまり意味をなさないものになってしまう。その辺り、また今後の課題としてあると思う。結構大変かもしれないが。

委員 完璧は無理と思う。

委員 調査に行ってくれたのはすごいと思う。

委員長 環境も相当違う環境、いろんな環境があるので、同じ方法でというわけにもいかないところもある。そんなことを受けてもらえるかも分からないが、ちょっとでもやっていくのであれば、そこは考えないといけないことと思う。

委員 資料1-2-3の中で、例えば90番の佐曾利川のところにゲンジボタル多産と過去にスポットとして評価されているが、今回の調査時期にはホタルの幼虫が見つからなかったとある。こういうのをどう評価したらいいかというのは非常に難しい。いつの時期に調査したのかを確認しないといけないので。本当にこの時期だったらいると確認したうえで、いなかったとしたら、それは

評価を下げていくしかないと思う。

委員長 90番は、1-2-1の表を見ると、ずっと動物に関しては2、2、2。

委員 そうだと思う。出る年と出えない年が極端に違う。

委員長 11年の評価で大きな変化はないようだ。

委員 書かれているので、これは件数としては現状維持と判断しているようだ。

委員長 このような感じで判断するしかないかと思う。

委員 逆に、104番の川下川は昆虫はあまり書いてない。

委員長 ここはずっと3である。

委員 ここは、ゲンジボタルが乱舞していた。

それから、その上の103の放棄水田というのは、実は県の土地で、県有林における木質バイオマスの事業者の資材置場などになっている。県が潰している。

委員 もう、ここは潰れてしまっているのか。

委員 全部、土盛りしてある。ここはアカガエルが大量の卵を産んでいた。

委員長 そういうせっかく宝塚市がスポットとして指定していても、保全のためにはならんら考慮されていないということか。

委員 だから、前のため池のときの問題も含めてだが、県と市との連携は全くないのが実情ということではないか。

委員長 貴重な場所というのを挙げてリストアップしてスポットとして指定したつもりだけれども、保全の役には立っていないとか、周知されていない。そういう状態になっているところが本来一番大きな課題であると考え。そこをOECMとかそういう形で保全の対象としてきちんと場所を特定して守っていく。その活動をしていくという方向性を出さないことには、やってもしようがないという話になってしまう。

委員 宝塚市の重要な生態系のところを県のレッドデータブックに提案してあげて入れていってもらわないといけないと思われる。

委員長 認知されてないということか。そういうこともあるので、ここをまず大事なスポットだということの認識を広げていくためにも、今言ったようないろんな課題をクリアしていかないといけない。

去年のこのスポット調査の分析の部会のとくに最後の報告書で出ていたが、1-4-1の表1とか、それから表2のところに劣化とか変質とか消失というカテゴリーをあえて設けて整理した。そのときにランクのDというのがわかりづらい扱いになっていて。もともとは未調査、情報なしというランクだったが、いつの間にかCの下という位置づけに変わって行って、それをそのままきいているので、あえてEみたいなランク。Dは未調査のままで、EはCよりも下、どっちがDとEとどっちがいいのかよく分からないが、そういうランクを設けて

はどうかという提言をしていた。

Eに該当するような場所はそんなにはなかったが、これはランク外に、スコアから言えばCより低くなってもまだ保全していく価値があるだろう、回復させる手を打てば保全する価値があるというのを確かEにした気がする。そういうのを少し入れた形で、表を最終的にはまとめてほしいと思っているが、いかがか。

事務局 例えば点数をつけていくのであれば、ABCでCの下をDとして、未調査を例えはもっと別のXとかYとかにした方が分かりやすいと思った。

委員長 そこは分かりやすいものでいいと思う。

事務局 Dとなっているものが未調査もあれば、まだ保全はすべきだけれどもCよりも点数が低いからDとなっている箇所がある。そこは統一してCよりも点数は低けれども保全すべきものというところはDとして、未調査のところは別の表記にてきちんと定義してそこは修正する。

委員長 そうである。それと、もうどうしようもないというような認定をとったらランク外とする。

事務局 承知した。

委員 小生態系の位置づけが、よく分からない。そういうのが集まっているところが小生態系なのか。近いところであるとか。

委員長 スポットが集中しているとか。

委員 そうである。

委員長 小、中、幾つかそういうエリアがあったとは思いますが、ゾーンとかエリアという言い方も。小生態系というのはどこに定義されているのか。

事務局 現行の27ページに、幾つかのスポットの集合地区をエリアとして13か所、エリアの集合地域をゾーンとして9か所を選定していますと記述がある。

委員長 小生態系というのは、エリアに相当するのか。どこかに定義されているのか。

事務局 小生態系はスポットである。スポット指定されてないところもあるが、そこを重要な小生態系として129にしている。

委員長 定義はどこかにあるか。

事務局 28ページの表の下に、ABCの各ランク区分については各項目で得られた評価点の合計得点が7点以上をスポット（重要な小生態系）とし、以下の基準で3ランクに区分し評価していますというところだ。

委員 集中していたのはエリアで、さらにエリアが幾つか集まっている場所をゾーンとして宝塚をゾーンにしているみたいなそういうイメージ。

委員 それが29ページのところか。

委員 ちょっと色が緑の濃さが微妙で分かりづらい気がするので、その辺はもうちょっと濃淡をつける方がいい。

委員長 確かにこのスポットの分布と、エリアなりゾーンなりの重なり方というのは、ちょっと見たところどういうふうになっているのかが分かりにくい。

委員 この辺を考えるとときに、スポットの重要なところは小生態系として着目していくということだったと思うが、スポットとして重要なところがなくても、例えば六甲山系だと山として全体的に重要ではある。小生態系ではないけどエリアとしては重要である。そういう意味では、今回の戦略を考えるに当たってエリアの検証や評価も必要かもしれない。

委員長 本来は、スポットだけで保全するのはむしろ難しいので、もうちょっと面的な広がりを持って、その生き物が移動できたりそういう場所を確保するという意味では、こういうエリアとかゾーンの考え方は本来はすごく大事だと思う。その辺りが貴重な場所というのをうまく作り上げているかについてもどこかで検証しないとイケない。よく分かっている方でないと難しいと思う。

事務局 宝塚市生態系レッドデータブック2012、平成24年3月バージョンでいうと、そこには小生態系の説明であるとか、エリアは1から13まであってどこであると記載がある。ゾーンは例えば佐曽利川流域であるとか、このレッドデータブックで記しているところが現行計画では反映されている。ただし、残念ながら私たちも「生物多様性戦略」の改定を今進めているが、レッドデータブックの改定までいけてないので、そこがおっしゃっているような平成24年に決めたところが、そのエリア・ゾーンの変動なりが合致しているかといったら、時間がたつにつれて多少変わってきたりするので、このレッドデータブックの改定が課題ではあるが、そこまで手をつけられていない。ずっとこのままでいいかと言われると、10年以上もたっているので変わってきていると思われる。今の戦略の改定に追いついてない状況である。

委員長 そのエリアをどうするか、場所を修正する検討は今すぐにはできないと思うが、そちらのほうでゾーンとかエリアを決めていて、ここにも一応それは出てくるが、地図が出ているぐらいで、実際「生物多様性たからづか戦略」の中での位置づけについてほぼ言及がない。どのようにすれば良いかが書かれてないのはやはり問題という気がする。

委員 せっかくレッドデータブックで指定をしているのだから、それも取り込んだ形で保全の戦略を立てる。そういうところを指定して保全していく姿勢がないわけではないのかもしれないが、もう少し明確に打ち出した方がいいと思う。

委員 今回のスポットの結果が出てそれぞれ劣化しているところは出ている。それをこの地図の中に落とし込んでみると、例えば西谷のほうは劣化が進んでいるとか、都市のほうも意外と劣化が進んでいるところが見えてくるかもしれない。そういう使い方は、エリアと重ねていくというのは一つあると思う。今回エリアごとのモニタリングはされていないが、何らかの情報を引っ張ってき

て県の野生動物関係の調査の結果とかその辺を合わせて、どのエリアがどのようになっているかという拾い上げはできるかもしれないが、誰がどこまでやるかという話になるので、それは課題と思う。

委員長 視点として、もう少し広域というか、スポットだと本当にそこだけの場所の視点になってしまうので、もう少しゾーンやエリアといった広い地域を含めての評価はぜひ欲しいと思う。確かにどのように評価するかは、なかなか難しいところだと思う。

委員 ため池なら、必ず水源である。そこもエリアにしないと、ため池を中心にスポットを挙げるなら、保全には意味がないような気がする。

委員長 そうである。この戦略を見ていると、個別にスポットについては言及がある。森林やため池の生態系のタイプについての個別の言及がある。それから、次は種の多様性ということで分類群でどうかというのはある。エリアなどに関してはあまり言及がない。レッドデータのほうに書かれているのか。

事務局 エリアがどこであるとかは。

委員長 地域、北部地域とか長尾山地域とか、そういう単独地域のことである。これはゾーンに対応しているのか。

事務局 エリアやゾーンは、例えばマムシ谷とか語句としてはあるが、あとは地図を見てどのスポットが入っているか目視するレベルである。データできっちりスポットがどこに属しているなどは、一度帰って調べてみる。今のところ、エリアとかゾーンごとの評価はないと思う。スポットのエリアがどこか、ゾーンがどこかというところでスポットをその分類に当てはめていきそのスポットを眺めたときに、そのエリアとかゾーンとして何か特筆すべきことが言えたり総評できるのか。そこは調べが要るかと思う。

委員長 そういう方向性で少し検討していただきたい。

事務局 恐らく、今日で議論し尽くすには時間も正直、足りないとは思っている。今回は第一章のところまでできたらと思っている。そこは基本的な位置づけのところ、次回は自然環境というところでまさに今出ているところがまた出てくるので、そこが重なってきて次回以降議論できる。

第3章になってくると、体系や目標をどうするか、などが出てくる。残っている課題については並行して、そこは議論もまた今後できると考える。今年の後半から審議会の委員会を重ねていき、来年度までに策定なので、一個ずつ完璧に仕上がって次進んでいくかいうと、少し課題も残しつつ振り返り、宿題返しをしたり、という形で進んでいくものだと思っている。

委員長 議題1で議論したことが、次の章にも反映していくことになると思う。そのほか、よろしいか。

議題2 生物多様性たからづか戦略の体系、構成等について

委員長	議題2「生物多様性たからづか戦略の体系、構成等について」もかなり大きな話である。まず、事務局のほうから説明をお願いします。
事務局	<p>資料2-1はひょうご戦略のポイントをまとめたもので、2-2は県の戦略の案である。</p> <p>まず2-2を見ると、今までの計画と違って横長の形式になっている。形式を大幅に変えたという感じがする。その分、簡略的に書いているので、正直、情報量は減ったという印象を持った。危機については、深掘りして何をやっていくかを中心に書いている。</p> <p>ほかの市の戦略を参照しても、あまりこういう横スタイルは見ない。流れとしたら、PCで見るが多くなるので、こういうパワーポイントスタイルのものが、今はまだほぼ見受けられないが徐々に出てくるのかもしれない。県は割と思い切ったスタイルを採ったなというのが正直な感想だ。今までの戦略はボリュームが多いとか、分かりづらいとか、そういうことを県自身がまとめている。</p> <p>2-1を見ると、「昆明・モンリオール」、「ネイチャーポジティブ」、「30 by 30」などといったところを新しい要素として入れてきている。特定外来生物のほうも力を入れていると思う。</p> <p>2-2については、これも1個1個説明したら難しいが、割と写真をふんだんに使い、簡潔にしている。2ページ目、第4の危機で気候変動を入れているのは今の時代に合わせて、割と危機を重要視していると感じる。ほかの市の戦略を見ても、危機のところをこれぐらい取り上げてやっているところはあまり見ないが、そういう特徴があると捉えている。</p> <p>私どもが戦略をつくるに当たってここで特に関係して書かれているところや作り方は注視していきたい。</p> <p>次に資料2-3、これは県の改定案が出てきたので、現行の市の戦略と2月にお見せした改定案を記載している。今回は第1章で、第2章の辺りは次からになってくる。ここはまた変わってくる可能性はあるが、ざっと横に並べてみた。第1章の辺りは似ている。第2章のところは兵庫県における生物多様性で、割とここが県はシンプルという気がする。現状の宝塚市の自然環境辺りは項目立てが多いので、その辺は大分差があり、私たちが今改定案で書いているのはその中間ぐらいである。改定案の中で章立てをできるだけスリムにしつつ必要な情報をどこまで入れていくかを、今後お見せしていく。</p> <p>県は、危機についてかなり書いている。第4章以降は基本戦略や行動目標で、それは次の資料で説明する。</p> <p>次は資料2-4。こちらは国・県・市という形でどういう目標事立てしている</p>

かをまとめた。

国は2050年には自然と共生する社会、2030年がネイチャーポジティブを目標に掲げている。私たちの目指している次期のところになるかと思う。基本戦略が5つある。

県の戦略は、過去比較はあまり書いていないが思い切って変えている感じがする。理念は『生物多様性が育む「恵み豊かなるふるさとひょうご」を私たちの未来へつなぐ』。これは、今の市の戦略の基本理念でしっかり恵みを引き継いでいくという形で、表現は違えどかなりコンセプトは似ている。それが自然と共生するという国ともつながっていると思う。

めざす姿のところも、県は思い切って書いている。一番初めにネイチャーポジティブや野生動物、里山などそういう形で、他市でもこういうスタイルで書いているところもあるが、本市においてはそのようなスタイルは取っていない。今後目標をどのように掲げるか、今日は議論する時間はないが、どんなふうになっているのかを理解していただければと思う。

市は基本理念、理念、目標、方針と結構刻んでいる。県の基本戦略は3つ。豊かな自然環境の保全。これは市の行動方針と似ている。2番目の自然の恵みは、市で言うと多様性の恩恵というところと似ている。3番目の豊かな自然を未来へつなぐは、市でいうと、学び守り育てる。この辺りは割とつくりは、意味するところは似ていると思っている。

行動目標については、県と似ているところもあれば、似ていないところもある。特徴的なのは「30 by 30」を1番にもってきているというところと、侵略的外来種の防除というこのところで先に挙げて書いているというところである。

市は、具体的施策「30 by 30」は書いていないが、外来種の防除などは具体的施策になっており、基本施策の中では野生生物の保護管理などのような分類になっているので、その上位理念のところは似ているが、今後、基本施策と具体施策の組み方をどのようにしていくのか。基本的に継承していくのか、変えるべきところは時代に合わせて変えていくのか、その辺りが議論ポイントである。

また、市の現行戦略は目標と行動方針は似ているが、県は基本戦略と目指す姿という全然違う形で区分できている。体系を分かりやすくするのか、目指すべき像みたいなものを打ち立てるのかなど、次回かその次ぐらいの策定委員会で審議することになると思われる。

今回はこういう状況だというのを知っていただき、次の議題の第1章のところはどういう目標なり理念にしても、基本的には位置づけのところは大体共通する部分なので、今回、その辺りを具体的につくり込んでみた。前とどう違った

かも含めて見ていただきたい。
 委員長 今度の戦略の改定に当たっての構想を、国とか県とかと比較しながら説明をした。質問や意見をお願いします。
 委員 今度、こういう紙ベースにする予定はあるのか。
 事務局 時代が時代なので、地球温暖化対策実行計画やエネルギービジョンなど環境部で持っている計画関係は、そういう冊子にはしていない。
 まだきっちり決めていないが、多くの部数じゃないが印刷は今のところ一定要ると考える。時代的には印刷せずにデータでの参照になっているが、なかなか完全に印刷無しまでは難しいと思われる。
 委員 紙ベースにするのは別に自分からその情報を取りにいかなくても置いてあったらぱっと目に入るのはすごい利点と思う。ただし、字を読む人が少なくなっているのもそんなには要らない。でも、一定量は要ると思う。
 データ化するなら、やっぱり関係書も全部そうして。このパワーポイントスタイル。このほうが見やすいと思う。
 事務局 パワーポイントスタイルだと、そもそも横スタイルになっているので、つくり方も一新されてしまう。次でお見せする第1章は、2月にお話ししたときに委員の皆様から一定の情報量は欲しいとの意見あったので、中身は変え、表も入れたり写真も多めに使うが、今のところは形としては縦型で横書きをイメージしている。
 あとは概要版も作ろうと思う。例えば概要版を横版にするなど、そういうことは可能だと思う。
 委員 マンパワーが必要だと思われる。
 事務局 私たちもこういう戦略を作って一般の市民が手に取って気軽に見ていただけるとは正直思っていない。そういう計画が市の中でそんなに見られていないのが現実だと思う。他の自治体や国、県を見てもなかなかないと思う。見ていただくのは、できるだけ数ページ程度のもので、啓発イベントなどでお配りするとか、簡単に見ていただいて関心のある方がこっちもできるだけ多く踏み込んでデータでアクセスして見ていただくとか。そういう努力はやっていかないといけないと思っている。
 委員 冊子版を作ったときに、どれぐらいの方が読まれると思うか。
 事務局 冊子版とは、どっちのスタイルにしてもということか。
 委員 縦長のほう。横型のパワーポイントスタイルは汎用性が高そう。例えば、中学校の授業でタブレットを使ったり、スクリーン表示する中でも使いやすいと思う。
 事務局 それも一理ある。県ボリュームが多いのでパワーポイントスタイルでページ数も情報量も減らしていると思う。横版ですごい情報量を維持してやるとなる

と、現状でも結構なページ数で、分厚いほうだと思っているので、情報量を維持するのであれば相当重いデータになる。見られることを考えると情報の精査が要ると思う。その辺りはいかがか。そこが両方維持してやるのは難しい。ここでお伝えしていたレベルの情報量を全て載せるのは難しい。

今日御意見をいただいて委員の皆さんが横版がいいとおっしゃったら一度検討ということになると思う。今日その意見はできれば伺いたい。

委員長 この兵庫県のやつを見たときに、最初はこれ概要版かなと思った。そうではなくて、これが本体だということか。

事務局 そうである。

委員長 それは、見るときは確かに見やすいが、文章も細切れの項目ごとの文章で、作る側からしたらどうか。古い感覚かもしれないが、冒頭になぜこんなことするのか、その目的とかそういうところから書き起こすというスタイルも、精読しようという人にはこういうことを考えているというのが伝わるだろう。それを作っているほうも、文章でそれを書いていくという作業はある程度大事なことだと思う。

本体としては今までのようなこういう冊子スタイルや印刷するかどうかは別にしても、きちんとした文章で書かれているスタイルがあるのは案外大事なことだと思う。

その上で概要版を作るということであれば、それはパソコン画面とかで見やすいような形にして、それを広げていくのは良いと思う。

事務局 委員長がおっしゃったように、どのスタイルにしても一般の人が手に取って見るというのは正直ハードルが高いと思う。兵庫県はスタイルを一新しているが、それを県民がよく見るまでに至るかといったら、なかなか難しいところもある。興味のある人は見るし、当然、概要版とかでも広めていく努力はする。市民などにたくさん見てもらえたらいいが、努力もするが、行政を進めていく上で多少深みがあるもののほうが、その業務をやっていく上で担当者が変わっていく中でもきっちりやっていけるのに近い状態になる。

当然、時代も変わっているのでできるだけ見やすく簡略に、概要版でどの辺までできるかというところは最低限努力しないといけないと思っている。

委員 行政の中で、この生物たちのことを共有し、これを使っていくというのは非常に大切だと思う。市民向けに作るという立てつけにすることと取組を本当に進めていくことと、そこは全然作り方が違ってくると思う。申し上げた方針でいくのであれば、冊子の形でしっかり情報を入れて作ってほしい。

事務局 ただ、現行の戦略はちょっと写真が少なくてイメージ湧きにくいとか、文章量として多過ぎると思う。体系の作り方とかできるだけ大きく捉えるようにしてそこから探れる構造に改善はしていきたい。

その中に委員がおっしゃったような前回と比べてどうなっているか、必要な要素は入れつつよいものにどうできるかというのが、お見せしていく中でいただいた御意見をできるだけ反映できるように努力していくことと思っている。

委員 概要版はこういう形で進めていけばいいと思う。

事務局 承知した。今までの計画の概要版、いろんな市の計画を見たが、それすら横版にはなってなかった。

委員 温暖化にしてもエネルギーにしても、縦型の10ページとかそれぐらいだった。兵庫県が思い切ったこういう形でやってくれた。

事務局 環境省は全部それである。

委員 そこは変えているが、市レベルではそこまでは見たことがない。せめて概要版ぐらいは努力したいと思う。

事務局 必ずしも横でなくても分かりやすければ良いと思う。

委員 承知した。いずれにしても、分かりやすくというのがポイントかと思う。

事務局 ただ、ずっと言っているが、戦略が実際に動くものでなかったら全く意味がない。環境エネルギー課は実動部隊ではないと思う。実動部隊へこれが必ず周知されるような仕掛けみたいなものがなかったら、河川改修にしても、田んぼの圃場整備にしても、山の切り出しにしても、何にも引っかからない。これはこれでカプセルに入れてしまっただけのものになってしまうので、そこだけは何か工夫を考えてもらいたい。

事務局 おっしゃるように他の部署にそれをアプローチして見せていくとか、発信していくところがまだ弱いと思っている。これを作る機会を強化して、横のつながりを作っていくといけないと思っている。

委員 中身というか実効性を伴うような戦略でない駄目だという御意見があって、それも本当に大事なことだ。構成についても大分スリムな形になっているが、これについては特に今のところ御意見はないか。

事務局 次の議題で言うが、できれば今年度もう一回ぐらいは会議を開催したいと思っている。そこで第2章をお見せする。このような章立てで考えているが、作成段階で一時報告し、御意見をいただけたら、会議の前に多少アレンジも可能かと思っている。

委員 これは、現行戦略とベースはほぼ同じ形なのか。

事務局 そうである。基本的には現行戦略を生かそうと、そんなに大きく変えたいとは思ってない。例えば、現行戦略の自然環境のところ、記載が多いところはスリムになるかもしれない。情報過多になってもいけないので、他の市の戦略などを見ながら必要なものはきっちり盛り込む形にする。

委員 最初に話した総括的なものはどこにあるのか。

事務局 総括というのは、例えば2-2の辺りの現状課題か、今の計画の27~28ペ

ージあたりでその振り返り論評するとか、その辺りかと思っている。

2-2-1、多様性の特徴というか、多様性のところでこれを述べているところで今こうなりました、それをどう捉えていますと書くのも検討する。

委員 1-1の戦略改定の趣旨で書くべきではないか。反省も含めて。

事務局 そこはいかがだろうか。

委員 何とかしていこうとか、できるまちとか、きれいごとばかり書いてある。だが、今までできていなかったということを真摯にちゃんと記録するべきと思う。その反省を踏まえてこの改定を実施するといったことを明記すべきだと思う。市はかなり嫌がると思うが。

事務局 どちらかという下次の章の議題の範疇になる。次の議題で、御意見をいただいて、議論になろうかと思う。

委員長 全体にかかわる話ではないか。趣旨のところデータも踏まえて書いていくと長くなるので、総括で出てきた課題はここに概要としては書くことにならないのか。

事務局 今のところ、委員の皆様が思われている形かどうかは分からない。それは次の議題のところ具体的にほかも含めて見ていただいて御意見をいただければと思う。

委員 ほかの課とかにインパクトを与えるような一言が入るべきだ。針のむしろになるかもしれないが。

事務局 市として書くので、他課とのかかわりについての記載は迷うところではある。形としたら市全体で書きましたという形になる。

ただ、できていないとか、ここはこうすべきといった記載は、例えば最初のページに市長の顔写真があって述べるといった形があるが、そこに反省も踏まえて書くというのもスタイルかなと思う。そこは具体的な中身の議論になる。市長のところの最初の文は、計画ができたときに書くことになるので、その議論は後になる。市長の意向もある。市としての反省云々というのは、第1章の策定のポイントのようところで書くか、本当の初めの初めの市長が述べるような形で書くか。方法はあるのかなと思う。

委員長 委員がおっしゃったことは重要なポイントである。改定するに当たって、今まで積み上げてきた戦略もあるが、現状を分析し、多様性が失われているという結果が得られた段階で、なぜ機能してないのか、戦略がうまくいってないのかというところで改定版が出るということだと思う。それをある程度見越して、最初に書けるかどうか分からないが、後で書き足しておくといった構成もあって良いと思った。

事務局 ある程度、そういう文言がどこまでか今後の調整もあるが、なかなか取組が難しいとききちんと書く。それを市長の初めにいうところで書く、併せて書いても

	<p>いいが、今回の改定に当たってというところで書く、あるいは、現状を総括するところを書く、あるいは一番後の効果的な推進のところこういう課題があるのでこういうふうやっていく、など、いろんな書き方がある。</p>
委員	<p>取組が難しいのではなく、できていなかったということだと思う。難しいのは難しいと思うが、視点があるかないかというのが非常に大事だ。</p>
事務局	<p>戦略を作って絵に描いた餅にならないようにするには、今回の改定案の中でも最後の効果的推進という項目を設けているが、それが実行されるにはこのようにするなど、そういうところで今回どう書けるかと考えている。</p> <p>言われているところを何らか記すのは大事だと思うので、それをどのようにできるかは作りながらそれが十分かどうか検証していき、議論の中で判断していくことになると思っている。</p>
委員長	<p>この改定案の構成に関しては、ある意味、作りながら考えていく部分も出てくるかと思うので、大体こういう方針で今臨んでいるということで了解をして、また進んでいくうちにもう少しここを書き足したほうがいいなどいろいろ御意見も出てくるかと思う。</p> <p>残り時間、僅かになってしまったが、最後に残っているのが第1章。ちょっと議論もあったが、現行戦略から書き改めている部分もかなりある。</p>
事務局	<p>説明を端的にさせてもらえるとありがたい。</p>

議題3 第1章案について

委員長	<p>では、まず説明を。</p>
事務局	<p>資料3-1について説明する。</p> <p>先ほどの2-3の章立てに合わせた形で整理をしている。</p> <p>まず1ページ目は、これまでは狙いと書いていたところについて、ここは「目的と趣旨」とした。県の生物多様性に関する流れを踏まえた形とした。</p> <p>2ページ目。こちらも国の戦略などを見て、内容は最新の情報に更新し、写真も掲載した。</p> <p>3ページから4ページにかけての生物多様性のめぐみのところは、タイトルをめぐみという形でこれまでにないタイトルを書いた。4つ目のサービスについては新しく入れた。</p> <p>4ページ目の危機の部分についても書きぶりを国家戦略に合わせる形で内容を修正した。第4の危機はこれまでは入っていなかったが、地球環境の変化によるという危機というところを、第4に加えている。</p> <p>5ページ目は「ネイチャーポジティブ」や「30 by 30」などのキーワードを取り入れる形で内容を更新した。</p> <p>6ページ目の表も、古いところからスタートしているものもあったり、内容が</p>

細か過ぎるところもあったので、そこを整理した。

7 ページの体系、これについても世界や国を組み込んだ形で作成をした。

事務局 目標年次のところは、計画期間をはっきり書いてないのが現行の特徴だが、ここは迷うところはあるが、2050年度を目標に2030年度を目標年度と捉えた中身であるというようにしている。以上です。

委員長 あまり時間がないので細かいところはなかなか今チェックできないかと思うが、何か問題点とかはないか。

委員 県の戦略のほうで、資料2-1のところに新たに追加すべき主な視点ということで「ネイチャーポジティブ」とか「30by30」とか幾つか項目が挙げられている。こういった内容が今県が進めている改定もそうだが、国の戦略改定でもポイントとなっている。宝塚市の戦略を見直すに当たっても、今までは自然環境を保全していきましようという視点が主だったが、それをどう活用するかとか、どう自然を生かして我々の生活を守っていくかといった視点に変わってきている。なので、そういった内容をどこかに記載していく必要があると思う。戦略改定の趣旨のところを書くか、国内外の動向のところなのか、どういうことに取り組んでいかなければいけないのかなど、どのように自然を変えていかなければいけないのかという辺りをしっかりこの前段のところで記載いただければと思う。

事務局 承知した。1 ページのところ、戦略改定の趣旨で、文言としては「ネイチャーポジティブ」とかあるが、書き方としたらこういうことが策定されたからこうするという極めてシンプルな形に書いている。委員がおっしゃったような、もう少し市としてどう捉えているとかいうところまで踏み込んで書く。また、現状の取組がどうかというところも踏まえて、こういう流れとか市の考えがあることを改定の趣旨のところでもしっかりメッセージとして伝わるように書く。そういう工夫はできていると思っている。

委員 お願いする。

委員長 これを読むとあまり主体的には感じないかもしれない。

事務局 流れを受けて対応したという感じになっている。

委員長 状況が変わり、見直しの期間になるので変えるというようにしか読めないところがある。市としてもどれだけの覚悟で取り組まなければいけないかという、そういうところをはっきり示してほしい。それから、今までの取組では十分できていなかった部分もあるということを認識し、改定するということが書かれているのが望ましい。

事務局 承知した。次回会議を開催するときに2章案も作ってお見せするが、第1章で今日の会議で出た意見を踏まえて直したところを提示したいと思う。

委員長 いかがか。何かほかに感じられたところとか。

事務局 | 今回、御意見する時間もないかもしれないので、第2章以降もある程度進めていかないと時間の問題もあるので、宿題をお返ししたりする中でも、後で何か気になったことなどは多少戻ったりしながらでもまた見直していきたいと思う。その辺り、また御意見があればありがたい。よろしくお願ひしたい。

委員長 | 時間が来たので、これについて何かお気づきの点があれば、メモとかそういうものを事務局にメールでも何でも出して、次回はそれを基に検討するという形にする。今日のところはこれで終わりにしたい。

事務局 | それでは、ちょっと時間過ぎているが、事務局から何かあれば。

事務局 | 資料4の今後のスケジュールについて。生物多様性たからづか戦略策定委員会は、次回は12月を予定している。2か月しか間はないが、中身としては第2章を進めていきたい。あとはスポット調査の今日出た宿題などを修正したものについて議論できればと考えている。

事務局 | 第3回として2月頃を予定している。今年度は計3回を予定している。来年度はここに記載のとおり4回ほどやってパブリックコメントに進めていきたいと考えている。

事務局 | 正直、来年度はやってみないと分からないところがある。あくまで見込みでこれぐらいは要るかなと考えている。環境審議会での報告もうまく結びつけながら、今年度できるところまでいって、またその都度見通しを説明したいと思っている。

委員長 | かなりこれからタイトなスケジュールになりそうだ。他によろしいか。

委員 | 次回の会議では、第2章のところの資料が出るということか。

事務局 | そこを全部出したいと思っている。2-1と2-2があるので、できるだけやっているところはお見せしたいとは思ひう。

委員 | 完成度はそんなに高くなくてもいいので、ここにこんな図を入れますといった形の組立てだけでもいいかと思う。せつかく作っても、なくてもいいという話になったらもったいない。

事務局 | 承知した。

委員長 | 以上ということで。何か連絡事項とかはないか。

事務局 | また日程調整をさせていただく。

委員長 | それでは、閉会する。